

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの法令である「家庭的な環境地域との交流の下」の理念を共用空間、事務室に掲示し、重事事項説明書に明記している。地域社会への参加。交流を運営規定で契機している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で月一回のミーティングや定例会議のときに話したり、日々の申し送り、日々のケアや介護計画で実践している。	玄関、リビング。スタッフルームに理念を掲げている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、訪問時に理念の内容をお伝えしたり、定期的に家族会を行っている又2ヶ月に一度、運営推進会議を開いて、その中で地域の方やご家族の方に理念の説明などを行っている。	二ヶ月に一回、運営推進会議を開いている。議事録を家族に公開している。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの周囲を散歩することにより、利用者の方や、スタッフの顔を覚えていただき、挨拶を中心に日常的な会話をから交流を深めている。近所の方がご自宅でできた、野菜などを届けてくれる。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の加入は実現できてないが、、商工会に加入し、文化祭やお祭りの参加をしたり、地域のグループホームの協議会の福祉祭りやバザーに参加している。地域の高校生のインターシップの場を提供している。ホームに仏壇をおき、地域の寺院のご住職に月まいりをしていただいている。	運営推進会議で、町内の組長さんや地域の民生委員の方に災害の時の協力などを呼びかけている。近所はお年よりの多いので、反対にホームでの協力ができる体制にしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>地域の高校生のインターシップ等の受け入れやヘルパーの実習生の受け入れを行なっている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>自己評価はスタッフ全員が取り組む事で事業所の質の確保に努めている。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>外部評価の結果はご家族に報告している。運営推進会議で結果を報告して、会議メンバーから率直な意見もらい、サービスの向上に具体的にむすんでいる。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>事業者だけで、問題を抱え込まずに、市町村担当に現場や利用者の課題解決など、事業を行なって上で生じる運営サービスの課題など一緒に協議しながら解決をしていく</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>職員は研修会に参加をして地域福祉権利事業や成年後見制度を勉強している。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>日々の申し送りやミーティングで常に虐待の徹底防止に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時は、ご家族の方に時間をとって重要事項や契約書の説明をしている。退去時には事業者のケアに関する考え方や取り組みを説明している。利用者・ご家族のホームでの希望等を聞きながら、事業所でできること、できないことを説明している。	医療連携体制、起こりうるリスクの説明をしている。長期に入所されている方にも契約時だけではなく、状況に応じてリスクの説明をしている。重要事項説明書、契約書、医療連携の同意書がある。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所側から利用者本人が意見、苦情を出しやすいように働きかけている、意見や苦情について検討をおこない対応策をホーム全員で考えている。	苦情受付、処理記録している。第三者委員を設置している
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族に金銭管理は毎月、使途の確認や金銭管理帳を明示し、報告している。医療関係にかかられた時はその都度報告をしている。手紙を定期的にだして暮らしぶりを報告している。	ご家族には三ヶ月に一度、利用者の方の暮らしぶり、健康状態などの状況報告を手紙で報告している。金銭管理は個人の出納帳を記入して毎月、報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時に意見、不満、苦情があれば、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心がけている。家族会を設け、家族同士の集まりで意見交換を出せるようにしている。申し出があれば、その都度ミーティングで運営者、職員とで話し合い反映させている。	ホームにめやす箱を設置している。管理者が常にご家族の訪問時にホームに意見や心配ごとがないか聞くように心がけている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は運営に関する現場の意見を職員から聞き、ミーティング時や個別面談を行なうなどして。職員の意見を反映させ、質の向上につなげている。	ミーティング時は職員の意見、要望を運営者と一緒に考えている、職員、全員が意見交換できるようにしている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	変化する利用者、家族の状況や個別の要望にそって必要な支援を柔軟な体制が取れるようにローテーションを組んでいる。必要な時間帯に人員が確保できるように管理者と職員が話し合いながら調整している。	管理者は状況に応じた対応ができるように、夜間の対応や利用者の変化に応じた体制を確保している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近では職員の交替はないが、職員が変わるときは、引継ぎの期間を十分に取って、利用者や家族の不安を持たないように配慮している。	新しい職員が入る場合も、利用者నికిきちんと紹介し、利用者からホームの事を教えてもらうような工夫をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>ハローワークや求人情報誌などを活用し職員を採用しているが性別・年齢の制限はない、就業規則が社労士によって作成、雇用契約書も取り交わされている。有給休暇の取得もある、子育て中の職員も働き続けられるように支援している。</p>	<p>運営者は職員全員に働きながらも能力の向上ができるように勉強会、研修会の参加を勧めている。子育て応援宣言企業事業所として登録している、社会保険労務士の方と契約している</p>
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束及び高齢者虐待防止マニュアルを作成している。身体拘束を行わない事を重要事項書に明記している。研修で職員は人権学習に参加している。</p>	<p>年間研修記録を作成している。ミーティングで身体拘束や人権について職員全体で話しあっている</p>
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画を作成し、運営者は職員の段階に応じて勤務時間内に研修に参加できるように努めている 地域のグループホームの協議会や他のホームでの勉強会に参加している。</p>	<p>職員は常勤、短時間の職員を含めて順番で研修の参加をしている。</p>
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホームの協議会に加入し、毎月の勉強会と情報交換をしている。同業者のホームの訪問交流でサービスの向上に努めている。</p>	<p>地域の包括支援センターが立ち上げた徘徊ネットワークに参加。連絡網がある。</p>
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は職員全員と日頃の会話をしながら、悩みや心配ごとを聞きストレスが溜まらないように努めている。スタッフはお互いに話し合いながら、勤務調整して公休の他、有給をとるなどしてリフレッシュをしてもらっている。一日の時間の中で休憩をとれるようにしている。</p>	<p>運営者と職員とで定期的な食事会をしている。社員旅行も行なっている</p>
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は毎日ホームに勤務して利用者と過ごしたり。個別職員の業務を把握している。職員の資格習得に向けた支援を行い、職員が向上心を持って働けるように職能評価を行なっている。</p>	<p>就業規則がある</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態をよく聞きながら、今後のホームでの生活を支援している。事前に何度か通所で利用していただき、食事などしていただいて、ホームに少しずつ慣れていただいている。	平成21年5月より共用型の通所介護を開設している。通所を通じてグループホームの入所につなげている。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談でご家族から生活状態をよく聞きながら、今後のホームでの生活を支援している。時間をとってご家族が求めているもの	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、他の事業者のサービスにつなげる等の対応をしている。	日頃から他の事業者の方と情報交換できるように努めている
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、スタッフが自宅に出向いていたり、遊びにきてもらったりして入所につなげる。すぐ利用になった場合には、ご家族やそれまでにかかわっていた関係者に来てもらうなどして、安心感をもってもらうようにしている。	ホームに利用者が慣れられるまでは、ご家族に面会や電話の対応をお願いしている。又、平成21年5月から共用型の通所サービスを開設している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は料理の味付けや盛り付けなど、生活の知恵を教わったり、利用者の得意分野で力を発揮してもらっている。	漬物を漬けるのを教えてもらったりしている、職員の三歳の子どもがホームに来て、利用者と一緒に過ごしている
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援している	ご家族が訪問時にホームに現在、気になることはないか常に聞いている
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族や本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊でご家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係になるように継続的に努めている。	家族会や夕涼み会などの企画をして、ご家族にホームに来ていただく。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている利用者がある。友人がホームに良く遊びにこられている。継続的な交流がある	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方の個別に話しを聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合うもの同士過ごせる時間をつくるように働きかけている	所々にソファを置いて、気の合う方がそれぞれに会話ができるようにしている。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方も遊びに来てもらっている。他の事業所に移られてもホームの方から訪問したりしている。	退所されても、ホームに遊びにこられたりしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、言葉や表情などから真意を推し測ったりそれとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている	利用者職員と一緒に飲みながら話し、本人の気持ちを聞いたりしている。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を作成して。利用時にご本人やご家族、関係者などから生活歴を聞きこれまでのサービス利用を受けてきたか把握している	ご自宅から来られた方はその方が暮らしていたお部屋などを入所前に訪問し、馴染みのあるお部屋にする。(ご家族の同意をえて)
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、朝夕申し送りをして、その日の健康状態を把握している。個別の介護日誌を記録している 毎日バイタルを計っている。	健康チェック表、介護日誌がある。個別の月間日誌を作成している
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている アセスメント含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行なって介護計画の作成に活かしている	家族が訪問され、意見や、家族の思いを告げられたとき家族日誌に記録している 介護計画に活かしている
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れつつ、三ヶ月ごと介護計画の見直しをしている	家族が訪問され、意見や、家族の思いを告げられたとき家族日誌に記録している 介護計画に活かしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。職員全員が確認できるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況の変化や要望に向き合い、重度化していく状況のなかで必要に応じて必要な時に必要なサービスを提供できるように支援する		今年は認知症のリーダ研修を受けショートステイの指定を受ける予定
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月一回から二回、ボランティアの方がホームに来園される。寺院のご住職が毎月、月参りにこられる 地域の協議会の研修で警察、消防署と連携をとりながら支援していただいている		フラダンス、紙芝居、歌等のボランティアにこられる
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のグループホームの協議会の参加で他のケアマネージャとの交流がもてる。通所を通じて居宅のケアマネジャーとの情報交換ができ必要性に応じて他のサービスを受けるとき支援していただいている		認知症の通所を通じて、居宅のケアマネージャと関わる事が多くなり、情報交換ができる
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域のグループホームの協議会に加入し、その研修会に包括支援センターが参加、勉強会をひらいてくれる		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度は近隣の医療機関から往診にきていただいている 緊急の場合も夜間にもすぐに対応してくれる		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		近くに認知症に詳しい医師がいる
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		医療連携がある
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		入院された場合は、病院にホーム関係者が頻繁に見舞うようにしている。家族とも情報交換しながら、回復状況など速やかな退院支援に結びつけている。
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		重度化に伴う意思確認書の同意書がある
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		急変した場合は、すぐに対応して頂けるように医療機関とも密に連携を図り対応している
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		時々、他の事業者に行かれた方も、電話をかけてこられたり、遊びに来られ、除々になれていただくように支援している

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方で、利用の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている	個人情報の保護に関する規程を整備し、入居者や家族に配布するとともにホームに掲示している
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者にあわせて声をかけ、意志表示が困難な方には、表情を読みとったりしながら、本人が決める場面をつくってる	ホームにパン屋さんやプリン屋さんが販売に来られるときは、見守りしながら、本人で選んでいただく
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重しながら、できるだけ個別性のある支援を行なっている 食事時間に時間がかかっても、自分で最後まで食べられるように支援する	本人の思いや、状態に配慮しながら、散歩や買い物をつたってもらえる
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度は美容院の方が来園され、カットや顔そりをされる、又本人が望む美容院に行かれパーマなどかけられるかたがある 朝起きられた時はご自分で洋服を選択されるなど支援する	日頃や特に外出時にはお化粧をしていただく
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の食べたいものを聞きながら、献立を立てたり、お誕生日やお正月など季節の行事にあわせた料理を提供する支援をしている 時々一緒に買い物に行くなどして献立を決めている	メニューがかさならないように献立表を作成している 配膳や後かたづけを一緒にしている
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の様子や時間をみながら楽しんでいただいている。おやつ時間は好みのお茶を飲んでいただいている	外食をしたり、バルコニーでおやつを食べていただいたり、時にビールを飲んでいただいている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレを誘導することでトイレでの排泄を促している 排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者には時間を見計らって誘導することにより排泄できるように支援している		排泄チェック表がある
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入っていただいている 但し入浴チェック日を確認しながら対応している		入浴チェック表がある
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を考えながら、昼寝の習慣のある方など声かけながら、支援する		起床時間もその人に合わせた時間におきていただいている
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日レクリエーションや体操を行なっている 得意分野でひとり一人のちからを發揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼のみ、感謝の気持ちを伝えるようにしている		利用者の体調に合わせて外出も積極的に行なっている 漬物つけや梅干つけ、草取りなどお願いしている
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方が管理することが出来るくらいの金額を持っていただく、その中で外出時にご自分の好きな物を購入されるよう支援している		家族と相談しながら、その方の金銭管理の支援に取り組んでいるご自分で出来ない方は、支払い時、自分で支払っていただけるようお金を渡したり工夫している
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気やその日の身体状況に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように日常的に散歩、買い物、ドライブなどに出かけている		近くの喫茶店にでかけたり、外食をしている 利用者のレベルに応じ外出内容を決定している
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う遠く場所への外出については、職員の勤務の調整を行い計画を立てている	○	ご家族の協力を得ながら、利用者の希望を叶えてあげるようにしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があるときは、電話をかけていただいている 会話が他の方に聞こえないようにしている		親しい方に、年賀状や暑中見舞いの葉書を出されるように支援している
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人がホームに気軽に尋ねやすいような雰囲気づくりを心がけている		ご家族は訪問時、利用者と一緒にお茶を飲んでいただいてゆっくりすごされる、レクリエーションに参加されたりしている
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者、全職員は権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所のなかで実施し職員の共有意識を図っている		身体拘束のマニュアルがある ミーティングや日々の申し送りで振り返り、自覚しない身体拘束がおこなわれていないか点検している
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し、ひとり一人のその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、日中は玄関の鍵はかけずに自由な暮らしを支援している		常に所在確認をその日の勤務者で確認している
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行ないながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている		夜間は居間で居室が見とせるところで利用者の安全に配慮している
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用が使う時に注意が必要なものに分けて管理している		本人にとって安全かどうか職員で話しあっている
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会などで事故防止の知識を学び事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる、事故やひやりはつとを記録し、職員の共有意識を図っている		転倒等、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行なっている 事故報告書がある

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員、消防署の協力を得て応急手当の勉強会(実技も含む)、夜間時の緊急時対応、火災非難訓練等を実施している	年2回の避難訓練の実施
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業者だけでなく、地域の住民の方にも協力得られるように働きかけている	消火器の確保、災害時の非常用備品、食料品の準備をしている
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	外出により、リスクが高くなるが、利用者の暮らしがゆたかになり表情が明るくなること家族に見ていただいたり、具体的に説明している	状況に応じてその都度、家族に報告している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により医療受診につなげている。些細な変化も見逃さないように早期発見に取り組んでいる。	職員全員に管理者への報告、連絡、相談の徹底に努めている
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるように、服薬ファイルを作成している服薬時は必ず日付け、名前の確認をしている	服薬ファイルの作成、副作用の辞書をおいている
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別の水分チェック表を作成、日々の水分の強化につとめているレクリエーションなどで常に身体を動かしていただいている	食事の献立を立てるときに工夫している
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後全員、口腔ケアを実施している	義歯はポリドントなどで夜間洗浄している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量の点検、チェック表に記録し、職員が共有している		毎月、月初めに体重測定をしている
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	全職員で研修や勉強会で学習している		感染症に対するマニュアルを作成している
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板やふきん等は漂白し清潔に心がけている 買い物も買いだめしないでこまめに買い物に出かけている		台所用品消毒マニュアルがある
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りに花や木蓮の木を植えている		玄関前にジュースの自動販売機を設置しているので、近所の方が買いこられる
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所が居間と対面となっているので、利用者の方はソファでくつろぎながら五感や季節感を意識的にとりいれることができる		家具の配置やフロアの飾りつけは利用者と一緒に考えている
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろがれている		廊下や居室の周りに職員が書いた絵画をたくさん飾っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いなれたものをご家族と本人と相談しながら、持ってきてもらい安心してすごしてもらえるように工夫している		アルバムなど思い出の物を持ってきてもらってる
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間を決めて空気の入替えをこまめに行なっている 湿度計や温度計を設置して、温度調整をこまめにしている		定期的にトイレなど本職の方に掃除に来てもらっている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら活動できるようにしている		玄関先にベンチを置いて日向ぼっこが出来るような工夫している
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗が続くとき、本人にとって何が分かりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるかを追求し、状況に合わせて環境整備に努めている		職員で話合いながら、本人の不安を取り除くように努めている
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで天気の良い日はおやつ、手作りお弁当を食べて楽しんでいただいている。庭には花壇や畑をつくり、利用者の方と一緒に花壇作りをする。		冬はベランダにイルミネーションを飾り、楽しんでいただく

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

平成21年度5月より共用型の認知症通所介護を開設している。グループホームの利用者の方も馴染みのお友達が来園されるゆな気持ちで迎えられる。通所の方も時間をかけてホームに馴染み、職員、利用者の方とも馴染んでいただく